

## 今週の為替相場見通し(2024年5月27日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		155.50 ~ 157.19	156.97	155.50 ~ 160.00
ユーロ	(ドル)		1.0805 ~ 1.0884	1.0846	1.0780 ~ 1.0950
(1ユーロ=)	(円)		169.15 ~ 170.47	170.24	169.00 ~ 172.00
英ポンド	(ドル)		1.2675 ~ 1.2761	1.2739	1.2600 ~ 1.2800
(1英ポンド=)	(円)	*	197.39 ~ 200.07	199.88	197.00 ~ 201.00
豪ドル	(ドル)		0.6592 ~ 0.6708	0.6629	0.6520 ~ 0.6700
(1豪ドル=)	(円)	*	103.48 ~ 104.57	104.07	103.00 ~ 105.70

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

金融市場部 為替営業第二チーム 伊藤 基

(1)今週の予想レンジ: 155.50 ~ 160.00 円

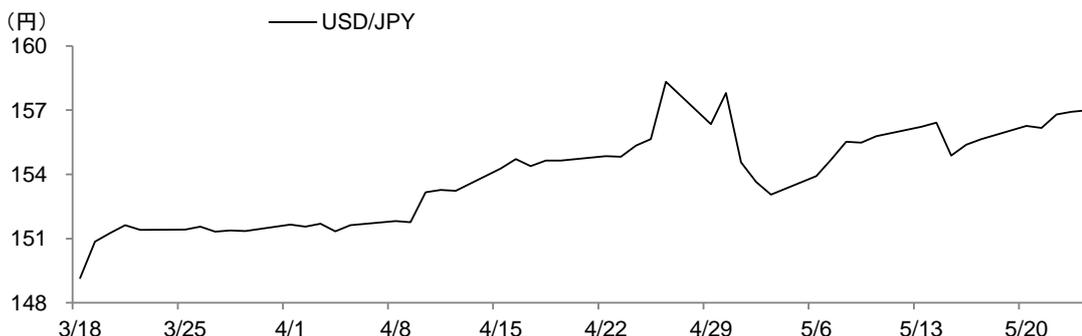
## (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は緩やかな円安ドル高基調となった。週初20日のドル/円は155.79円でオープン。日経平均株価の上昇や五・十日に伴う実需フローなどによってドル買い優勢の展開となった。欧州時間にドル/円は一時週安値となる155.50円まで下落するも、マスター・クリーブランド地区連銀総裁が利下げに対して慎重な見方を示したことで再びドル買いに転じた。21日にはウォラーFRB理事が「望ましいインフレデータをあと数か月、確認する必要がある」との考えを示したがその後に「追加利上げはおそらく不要」等とハト派寄りの発言が伝わると、米金利の低下と共にドル/円の上昇は一段落。22日の円債市場で10年債利回りが約11年ぶりに1.0%台を記録するも、ドル/円は反応薄。一方で、米国時間に公表された5月分のFOMC議事要旨では、「様々な参加者が必要なら追加引き締めに前向き」等とのタカ派寄りの内容が示されると、ドル買いが再び強まる。23日は米新規失業保険申請件数が予想を下回ったことに加えて、米5月製造業PMIとサービス業PMIが共に市場予想を上回ると、一段とドル買い地合いとなり、週を通しての高値である157.19円まで上昇。24日に公表された米3月ミシガン大学消費者信頼感の確報値では、期待インフレ率が速報値から低下。インフレ高止まり懸念の後退が意識される中、米金利低下に伴ってドル/円も157円を下回る場面が見られたが、米国市場が3連休を控えていることもあり、方向感に乏しい値動きとなった。

今週のドル/円は引き続き、ドル買い円売り基調を予想する。米国経済は底堅く推移していることに加えて、物価上昇圧力の鈍化も緩やかなものにとどまっている。こうした中では、Fed高官が利下げについては消極的な見方を示さざるを得ないだけに、利下げ観測が後退しやすく、米金利上昇に伴う形で、ドル/円にも上昇圧力がかかりやすくなるだろう。また、31日(金)には米4月PCEが公表されるが、中旬に公表された米4月PPI、米4月CPIの結果および市場の反応を踏まえれば、ドル/円相場の方向性を決定づけるような展開にはならないだろう。また、日銀が追加利上げに前向きな姿勢を強めることも想定しづらい。賃金と物価の好循環の実現が見通せる状態までにはまだまだ時間を要する可能性が高いだけに、今週予定されている植田日銀総裁、内田日銀副総裁の発言機会においても金融政策の方向性についてタカ派な意見は出ないと見ている。物価上昇圧力の明確な鈍化が見通せない米国に対して、タカ派姿勢を明確に打ち出せない日銀という構図の中で、ドル/円はジリジリと上値を試すだろう。

## (3)先週までの相場の推移

先週(5/20~5/24)の値動き: 安値 155.50 円 高値 157.19 円 終値 156.97 円



(資料)ブルームバーグ

## 2. ユーロ

金融市場部 為替デリバティブチーム 部坂 洋太郎

(1) 今週の予想レンジ: 1.0780 ~ 1.0950 169.00 ~ 172.00 円

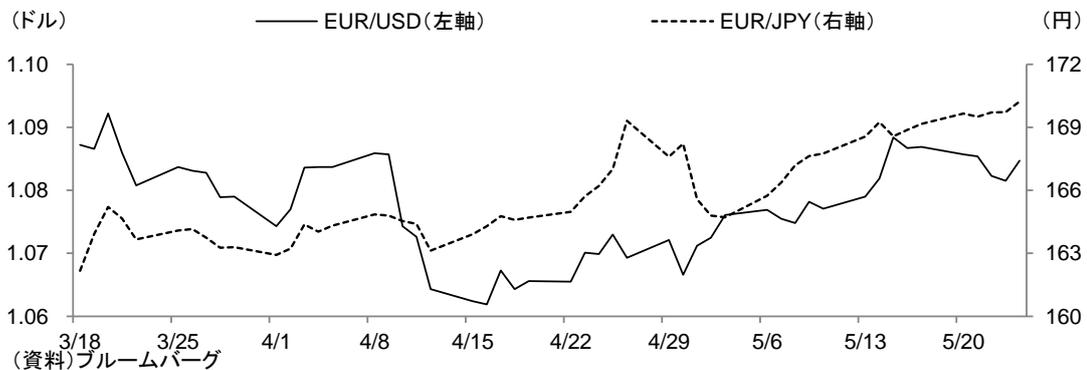
### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは、1.08台での狭いレンジ推移のうへ小幅下落となった。週初20日、1.08台後半でオープンしたユーロ/ドルは、日中の材料は乏しく値動きも限定的のなか、1.0857でクローズとなった。21日、米金利低下を背景にロンドン時間に1.0874まで上昇するも、米国時間にウォラーFRB理事からの「データはインフレ加速を示していない」とのハト派発言を受けて下落。また、ラガルドECB総裁から「物価動向に変更なければ6月利下げをする可能性が高い」との発言もあったが特段の反応なく、1.0854でクローズ。22日、ユーロ/ドルは米国時間に発表されたFOMC議事要旨にてタカ派的な内容を受けて下落となり、1.0822でクローズ。23日、ユーロ/ドルは欧州時間に発表されたユーロ圏5月製造業PMIの堅調な結果を受け1.0861まで上昇。その後、発表された米経済指標が軒並み強い結果を受けたドル買いの流れのなか、一時週安値の1.0805まで下落となり、そのまま安値圏で引け。24日、ユーロ/ドルはECBのナーゲル独連銀総裁から6月の初回利下げ後の利下げペースについて慎重な発言を受けてユーロ買いの流れとなり1.0858まで上昇となり、その後は1.0846で越週した。

今週のユーロ/ドルは、小幅に上昇することを予想。6月ECBでの利下げが、市場ではほぼ織り込まれた状況において、今後は年内の追加利下げのペースについて焦点が当たる。先週時点では、ECBにおける利下げが年内でおおよそ3回見込まれていたが、複数のECB高官から早期の追加利下げに対して警告する旨の発言もあり、年内の利下げペースの鈍化にはまだ織り込み余地があることからユーロは買われやすい地合いとなるのではないかと見られる。足許、31日(金)に発表されるユーロ圏5月消費者物価指数(HICP、速報)の結果に注目が集まる。また、米国においても同日31日(金)には4月個人消費支出(PCE)デフレーターが発表予定となっている。

### (3) 先週までの相場の推移

先週(5/20~5/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.0805 高値 1.0884 終値 1.0846  
(対円) 安値 169.15 高値 170.47 終値 170.24



### 3. 英ポンド

欧州資金部 中島 將行

(1) 今週の予想レンジ: 1.2600 ~ 1.2800 197.00 ~ 201.00 円

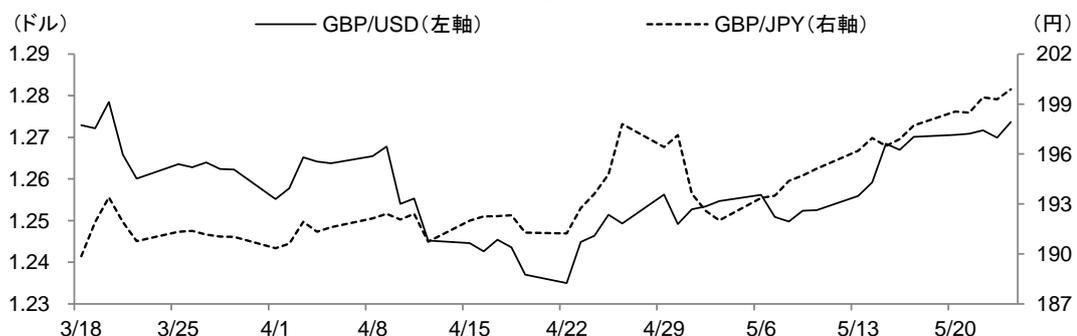
#### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンド相場は対ドルで+0.3%と続伸。5月22日に発表された英4月CPIが市場予想を上回ったほか、同日にスナク首相が7月4日に総選挙を実施すると表明したことを受けて、イングランド銀行(BOE)の早期利下げ期待が大幅に後退した。週後半には、FRB高官のタカ派発言を受けてドル高・ポンド安に押し戻される場面もあったが、金曜日引けにかけて再びポンドは上昇した。対円では4月29日以来となる200円をつけている。4月CPIは前年同月比+2.3%と3月分の同+3.2%から伸びが鈍化したものの、市場予想の同+2.1%を上回った。Ofgem(英ガス・電力市場局)が4月に標準家庭のエネルギー価格の上限を引き下げたことに伴い、エネルギー価格はCPIインフレ率の押し下げ要因になったものの、サービスインフレ率は前年同月比+5.9%と4月の同+6.0%からほぼ横ばいとなった。イングランド銀行は5月のインフレーションレポート公表時に、サービスインフレ率は5.5%に低下すると見込んでいたが、はるかに小さい落ち込みとなった。サービスインフレ率の高止まりについて、英国における最低賃金にあたる全国生活賃金(NLW)が4月に前年同月比+9.8%もの大幅な引き上げとなったことが影響した可能性がある。労働集約的な業種(レストラン・カフェや宿泊サービス業など)は、賃金の上昇がサービス価格に反映されやすい。英国政府は最低賃金(NLW及び21歳未満の労働者に適用されるNMW)が適用される労働者の割合は2024年に6.7%と試算しているが、最低賃金から時間あたり2ポンド以内で働いている労働者まで含めれば、その割合は2023年に31%だったと指摘している。さらに、より高水準の賃金の仕事にも最低賃金の大幅引き上げが影響した可能性もある。6月11日に発表される週平均賃金(4月分のデータ)はサービスインフレ率の先行きを見極めるうえで非常に重要に。BOEの調査では、4月に賃金の改定が行われる企業は全体の50%超にのぼる。金融市場では、6月20日の次回会合での利下げ期待が大幅に後退。会合前には▲25bpの利下げの可能性が60%程度織り込まれていたが、会合後には20%を下回る状況に。今後発表されるCPIや労働市場関連統計(特に賃金)のデータ次第ではあるが、賃金上昇、サービスインフレ率高止まりの状況が鮮明となるリスクを踏まえれば、8月1日の会合での利下げも怪しいのではないかと思われる。

今週1週間のポンド相場は引き続きBOEやFed、さらにはECBの利下げタイミングを巡る思惑に左右される展開となる。また、英国で7月4日に総選挙を控え、保守党・労働党からどのような政策が打ち出されるかも注目だ。英国の下院選挙は選挙区ごとに最も得票の多かった候補に議席が配分される完全小選挙区制度をとっているため、全国区の支持率と、実際の獲得議席の割合に相違が生じ、「サプライズ」が起きやすい。保守党も労働党も、それほど政策に違いはなく選挙結果の市場への影響は限定的という見方がコンセンサスのようにも思われるが、労働党のほうが環境政策推進やNHSへの支出拡大といった政策がとられる可能性が高い分、やや財政拡張的に傾く可能性があり、金利上昇、ポンド高のインプリケーションがあるだろう。

#### (3) 先週末までの相場の推移

先週(5/20~5/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.2675 高値 1.2761 終値 1.2739  
(対円) 安値 197.39 高値 200.07 終値 199.88



(資料)ブルームバーグ

#### 4. 豪ドル

金融市場部 為替営業第一チーム 南野 光喜

(1) 今週の予想レンジ: 0.6520 ~ 0.6700 103.00 ~ 105.70 円

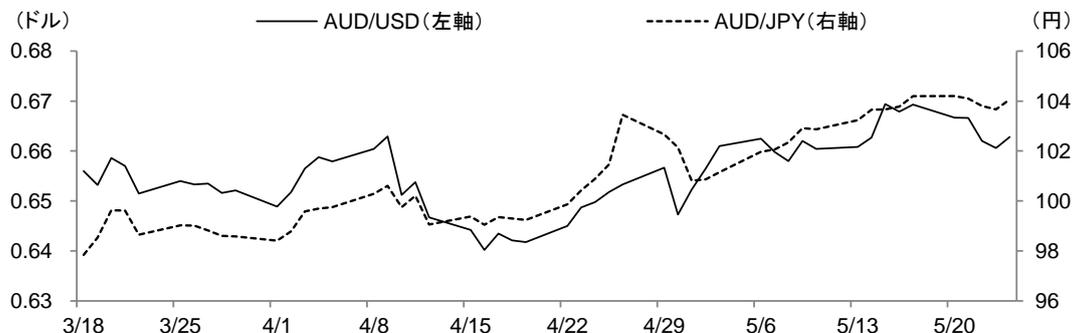
##### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、週初20日、0.6700でスタート後、じりじりと水準を切り上げ小幅に上昇。米国時間に入ると、複数のFed高官のタカ派的な発言に米金利が上昇し0.6670近辺まで下落した。21日、一日を通して約30pip程のレンジ推移。発表された5月会合分RBA議事要旨では利上げについて議論され、ややタカ派な内容となり、これを受けて豪債利回りは上昇したものの、豪ドルは中国株安が重しとなり上値が押さえられた。一時0.6647まで下落したが、その後は方向感に欠ける推移が継続。22日、0.6670近辺で取引開始後、タカ派的なRBNZの内容を受けてNZドルが買いで反応すると連れ高に。一時0.6685まで上昇したがすぐに反落。米国時間に発表された米5月FOMC議事要旨ではタカ派寄りの内容と解釈され、ドル買いの反応。豪ドルは一旦0.6609まで下落した後、0.6620近辺まで値を戻した。23日、米国時間に発表された米5月製造業、サービス行PMI(速報値)が予想・前回値を上回り、好調な企業活動とインフレ再加速を示唆する内容となった事でFRBが利下げを急いでいないとの見方が強まり、ドル買い優勢の展開に。豪ドルは一時0.66台を割り込み、水準を切り下げた。24日、米国3連休を控えて前日のドル買いの流れに調整が入りじりじりと上昇する展開に。一時0.6630近辺まで値を切り上げて、結局0.6629で越週した。

今週の豪ドル相場は方向感に欠ける展開を予想する。21日に発表された5月会合分RBA議事要旨では、追加利上げに関しての議論が再開されたことが明らかとなった。また議事要旨の中では豪CPIが2%~3%のターゲットをより長い期間上回り続けるリスクが増大しているものの、政策の過度な微調整を回避するために今回政策金利を据え置きとしことを示し、RBAには利上げ余地が残されていることが分かった。一方のFedはタカ派的なスタンスを維持しており、追加利上げの可能性は低いものの、現在の政策金利を長く維持することを示唆している。米金利も高値圏で推移しており、ドル買い需要も相応にあるため、豪ドルは一方向への動きとはなりにくそうだ。今週は28日(火)に豪4月小売売上高、31日(金)に米4月PCEデフレーターが発表が予定されている。市場予想を上回ればインフレの粘着性が意識され、豪米それぞれの通貨が買われやすくなる可能性は高そうだ。

##### (3) 先週までの相場の推移

先週(5/20~5/24)の値動き: (対ドル) 安値 0.6592 高値 0.6708 終値 0.6629  
(対円) 安値 103.48 高値 104.57 終値 104.07



(資料)ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。